



環境対応型 2成分反応形アクリルゴム屋根塗膜防水工法

建築物等の施工技術及び保全技術・建設技術審査証明書
BCJ-審査証明-55

The background of the page is a composite image. The top and bottom sections show a close-up of numerous blue water droplets of various sizes on a surface. The middle section features a blue architectural background with a grid of lines forming a diamond shape, with the product name 'アロコート SQ' overlaid in large white letters. The 'S' in 'SQ' has a registered trademark symbol (®) next to it.

アロコート[®] SQ

東亜合成株式会社

アクリルゴム技術が、日本の屋根を変える。 東亜合成のアロンコート®SQは、 次代をひらく屋根塗膜防水工法です。

雨と風、夏には厳しい日ざし、冬には霜や雪。そして豊かな自然が生む、動物や植物のいのちの営み。そうした変化に富む日本の四季が、古来より建物の防水技術を鍛えてきました。そしていま、東亜合成の新しい技術が、日本の屋根の防水を大きく変えはじめています。アロンコートSQは、水系の“2成分反応形アクリルゴム”を防水層とする、屋根塗膜防水工法です。軽量、複雑な納まりへの対応、シームレス等といった従来の塗膜防水の特長に加え、かけがえのない環境に配慮し、耐久性と信頼性が高い、屋上防水を実現しました。新築、改築の際には、多くの課題を解決するアロンコートSQを、ぜひご検討ください。

Ecology
エコロジー志向

**Heat
Shielding**
遮熱性能

Almighty
幅広い適用性

アロンコートSQ
6つの特長

**High
Quality**
高品質

Long Life
長寿命

**Light
Weight**
軽い防水層



瞬間接着剤「アロンアルファ」の東亜合成が開発したアロンコートSQは、その優れたひび割れ追従性・耐久性により塗膜防水の信頼性を飛躍的に向上させました。



建設技術審査証明協議会会員「(一財)日本建築センター」にて「建築物等の施工技術及び保全技術・建築技術審査証明」を取得、優れた塗膜防水工法として認められました。



高耐候性・高日射反射率塗料「アロンMDクールカラーSi」は、ヒートアイランド対策技術分野で評価され実証番号を得ています。

INDEX

日本の屋根を変える	2
特長：エコロジー志向	4
特長：幅広い適用性	6
特長：長寿命・軽い防水層	8
特長：高品質	9
特長：遮熱性能	10
工法選定	12
仕上塗料の適合性一覧表	14
下地調整とプライマーの選定	15
各種工法の工程	16
施工例	24
施工 / 施工手順例	28
技術データ	30
納まり	31
注意事項	34
使用材料一覧	36
アロンコートSQ施工後の維持管理	38
全アロン防水組合	39



できるかぎり廃棄物を少なく、有害
地球環境を大切に考える技術が、



な臭いや煙もすべて解消。 ベースにあります。

臭気や煙が発生しない、水系の防水材です。

アロンコートSQは、カチオン性アクリルゴムエマルジョン「アロンコートSQベース」と無機質硬化剤「アロンコートSQセッター」からなる無溶剤で水系の防水材です。水系材料のためVOC（揮発性有機溶剤）を大気中に放出しません。また、火気を使うこともなく、いやな臭いや黒煙の発生もありません。さらに、施工時の騒音・振動もありません。

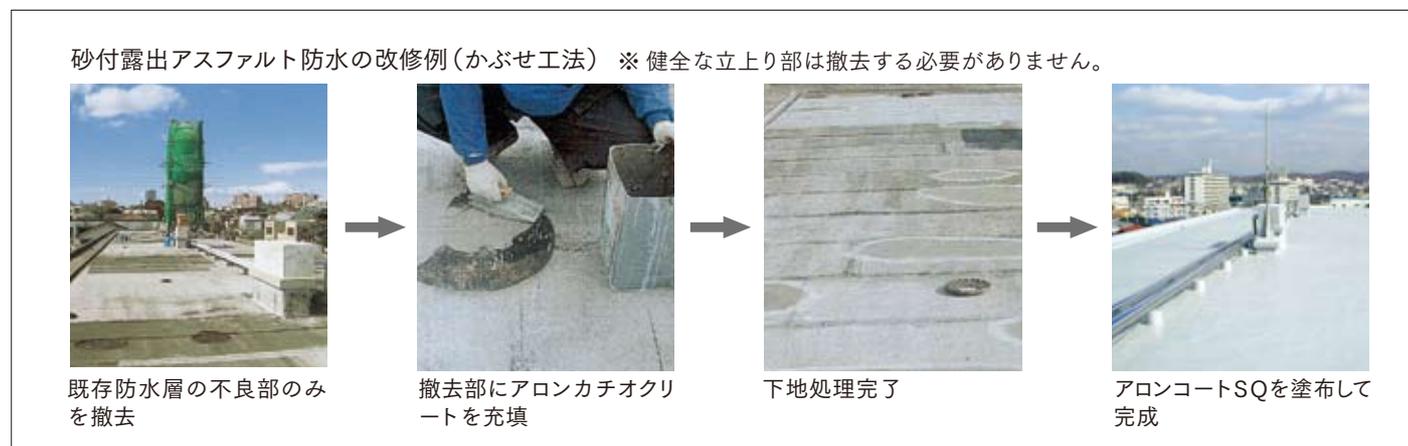
産業廃棄物の少ないエコ容器も採用。

アロンコートSQベースは、リサイクル率の高い段ボール容器を用い、産業廃棄物を低減しました。
①アロンコートSQベースは、段ボール容器と注入口付きポリ内袋の二重梱包です。
②使用後は、段ボール容器からポリ内袋を外し、段ボール容器はリサイクルが可能です。
※ご注文の際には段ボール容器をご指定ください。



廃棄物の少ない防水工法です。

アロンコートSQは、改修時の既存防水層の撤去を最小限にでき、工期の短縮や工事費の削減も実現できます。

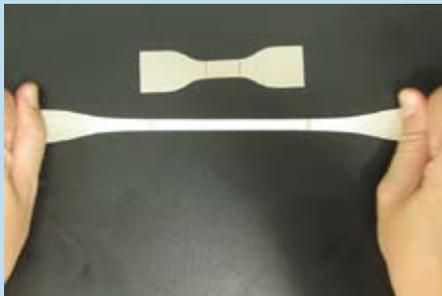


Almighty

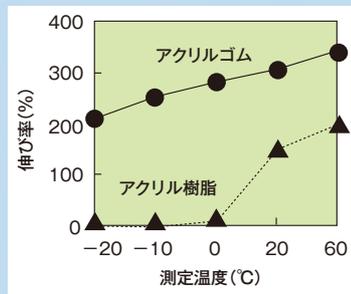
幅広い適用性

新築も改修も。屋根の形状を問わ まさに、オールマイティな塗膜防水

アロンコートSQのアクリルゴムは、
経年や低温時の弾性低下がきわめて少ない、
優れた屋上防水材です。



弾性の低下が少ない



低温でも伸びる

砂付露出アスファルト防水屋根
SQ-M

一般陸屋根
SQ-S、SQ-SP
下地水分の多い陸屋根
下地の動きの大きい陸屋根
SQ-KS、SQ-TK

アスファルトシングル葺屋根
SQ-AS

RC造ドーム屋根
SQ-KD

下地の動きの大きい鉄骨造ドーム屋根
SQ-KS

勾配屋根
SQ-K

塔屋壁面
SQ-HW

地下外壁
SQ-UW

ず、複雑な部位もカンタン施工。 工法です。

勾配屋根やドーム屋根など、さまざまな形状の屋根に適用できます。



既存防水層を撤去せずに改修する「かぶせ工法」に適しています。

- ①さまざまな既存防水層に適用できます(技術審査証明)。工法選定(p.12~15)をご参照ください。
- ②砂付露出アスファルト防水の改修には、コストパフォーマンスの高い密着工法でおまかせください。

砂付露出アスファルト防水の改修例 [SQ-M]



下地処理後



アロン水性プライマー塗布後
アロンコートSQ-M用調整材を塗布



アロンメッシュ+
アロンコートSQ 塗布

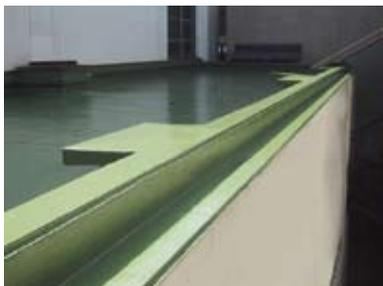


完成

アロンコートSQなら、施工しにくい部位でも対応できます。

複雑な納まりや形状でも、継ぎ目なく簡単に施工できます。端末金物を用いることなく確実な防水ができます。

パラペットの施工例



立上り面や複雑な形状への施工例



施工前

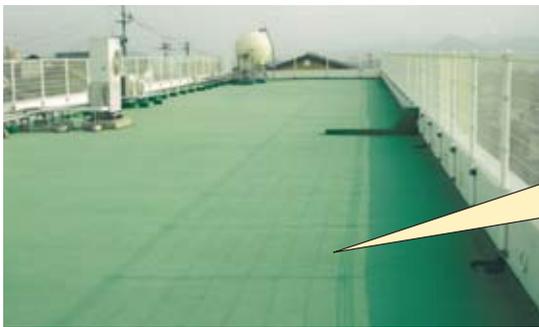


施工後

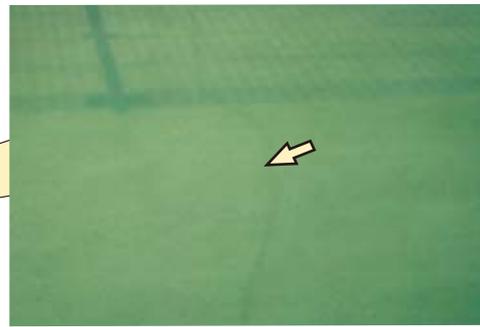


長持ちする点も大きなメリット。
部分補修もカンタンです。

アロンコートSQは抜群の耐久性を誇り、10年以上経っても防水層はほとんど劣化しません。そのためアロンSQリフレッシュ工法で塗り重ねを行うと防水機能が復元し、建物のメンテナンスサイクルコストを大きく削減することが可能です。



SQ-S工法(防滑仕上) 施工後、10年経過後の状況



下地コンクリートにひび割れが発生しているがSQ塗膜に破断は認められない。

万一の不具合にも、安心。アロンコートSQは不具合箇所が容易に見え、簡単に部分補修が行えます。



SQ-S 部分補修の状況



SQ-S 施工後、16年経過後の状況



防水層が軽いので、
建物に荷重負荷をかけません。

アロンコートSQは、一般的な下地処理を含めても約5kg/m²以下で、建物への荷重負荷を最小限にします。



品質の管理、向上、研究に たゆまず努力しています。

アロンコートSQに使用する材料の、品質管理は万全です。

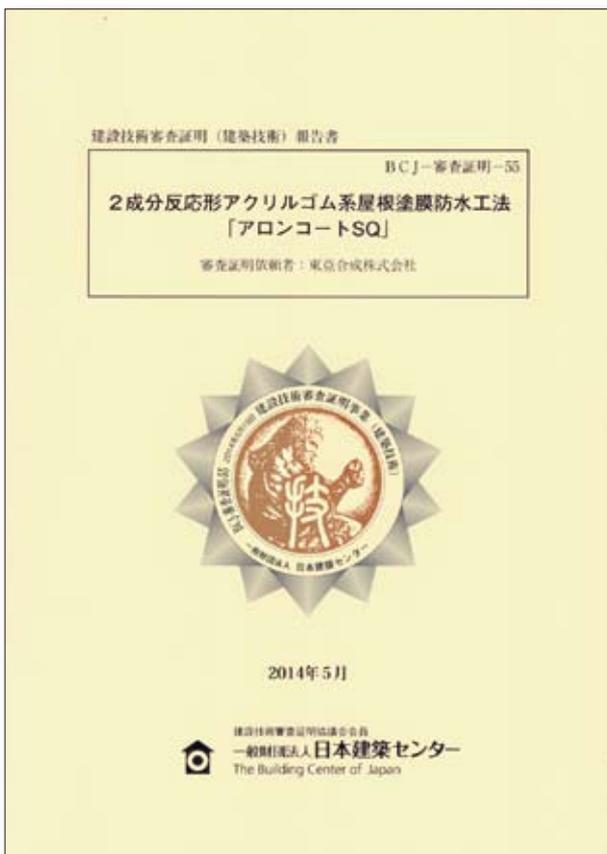
当社工場では ISO 9001/14001の認証を取得済み。環境に配慮しつつ、原料から製品化まで一貫生産体制を敷いています。

信頼の責任施工・アフターサービスです。

アロンコートSQは、高度な施工技術を修得した全国200以上の専門施工業者で組織された「全国アロンコート・アロンウォール防水工事業協同組合」の組合員が、責任をもって施工します。 ※協同組合の概要は、p.39をご参照ください。

※1 「建設技術審査証明」を取得しています。

アロンコートSQは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築改修工事標準仕様書」に記載されている、ウレタン系塗膜防水材料「X-1」「X-2」に類しています。



※1 建設技術審査証明は、民間における研究開発の促進及び新技術の建設事業への適正かつ迅速な導入を図り、建設技術の向上に寄与しようとする目的で実施されています。



高耐候性・高日射反射率塗料「アロ アクリルゴム」の組み合わせが、遮熱



環境技術
実証事業

ETV 環境省

ヒートアイランド対策技術分野
実証番号 051-1238

第三者機関が実証した
性能を公開しています

実証年度
H24

www.env.go.jp/policy/etv

本ロゴマークは一定の基準に適合していることを
認定したものではありません

高耐候性・高日射反射率塗料「アロンMDクールカラー S1」は、ヒートアイランド対策技術分野で評価され、実証番号を得ています。

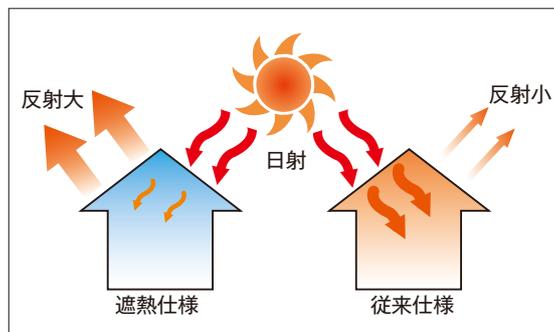
「アロンMDクールカラーSi」と 防水を同時に実現します。

優れた遮熱性能により、屋内への熱の侵入を抑制します。

遮熱性の高い特殊顔料を採用したアロンMDクールカラーSiを使用した遮熱仕様により、近赤外線を効率よく反射し、屋根の温度上昇、さらには屋内への熱の侵入を抑制します。これにより、室内の温度上昇を防止します。また、熱による防水層の劣化を軽減します。

耐候性、耐汚染性に優れています。

アロンMDクールカラーSiは、耐候性に優れた弱溶剤系のアクリルシリコン樹脂を使用しています。また、優れた低汚染機能により、汚れによる日射反射性能の低下を防止し、長期にわたって遮熱性能を保持します。



建物の長寿命化に貢献します。

遮熱性能による省エネ(地球環境の保護)や住環境の改善に加え、水分、塩化物などの劣化因子の遮断性、耐久性と信頼性の高いアクリルゴムが、建物を長持ちさせます。

標準色の日射反射率

アロンMDクールカラーSiは、各種公的規格に規定する日射反射率を満足しています。

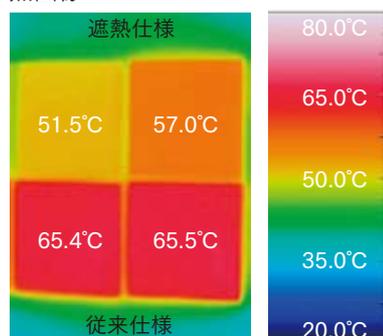
標準色の種類	日射反射率(%)		明度(L*値)	日射反射率に関する公的規格																						
	近赤外波長域	全波長域																								
クールグリーン	54.5	29.6	43.2	【JIS K 5675(屋根用高日射反射率塗料)】 <table border="1"> <tr> <th>明度(L*値)</th> <th>波長域</th> <th>日射反射率</th> </tr> <tr> <td>L* ≤ 40.0</td> <td rowspan="3">近赤外</td> <td>40.0%以上</td> </tr> <tr> <td>40.0 < L* < 80.0</td> <td>明度以上</td> </tr> <tr> <td>80.0 ≤ L*</td> <td>80.0%以上</td> </tr> </table> ※本JISは防水用には適用されません。 【KRK S-001(高反射率防水シート)】 <table border="1"> <tr> <th>明度(L*値)</th> <th>波長域</th> <th>日射反射率</th> </tr> <tr> <td>規定なし</td> <td>近赤外</td> <td>50.0%以上</td> </tr> </table> 【クールーフ推進協議会】 <table border="1"> <tr> <th>明度(L*値)</th> <th>波長域</th> <th>日射反射率</th> </tr> <tr> <td>規定なし(N-6のみ)</td> <td>全波長</td> <td>50.0%以上</td> </tr> </table>	明度(L*値)	波長域	日射反射率	L* ≤ 40.0	近赤外	40.0%以上	40.0 < L* < 80.0	明度以上	80.0 ≤ L*	80.0%以上	明度(L*値)	波長域	日射反射率	規定なし	近赤外	50.0%以上	明度(L*値)	波長域	日射反射率	規定なし(N-6のみ)	全波長	50.0%以上
明度(L*値)	波長域	日射反射率																								
L* ≤ 40.0	近赤外	40.0%以上																								
40.0 < L* < 80.0		明度以上																								
80.0 ≤ L*		80.0%以上																								
明度(L*値)	波長域	日射反射率																								
規定なし	近赤外	50.0%以上																								
明度(L*値)	波長域	日射反射率																								
規定なし(N-6のみ)	全波長	50.0%以上																								
クールグレー	69.7	45.1	59.4																							
クールライトグレー(N-6)	78.2	53.4	65.3																							
クールダークグレー	60.6	32.0	35.1																							
クールベージュ	70.1	52.2	69.3																							
クールダークグリーン	41.8	22.8	35.5																							
クールモスグリーン	54.5	29.6	42.0																							
クールダークブルー	50.4	26.1	31.9																							
クールブリックレッド	54.8	35.0	39.7																							
クールブラウン	53.7	27.9	30.5																							
クールチョコレート	70.3	37.0	35.5																							
クールホワイト	82.0	87.9	100.0																							

※日射反射率は、遮熱仕様[防水材・中塗材に、アロンMDクールカラーSi(クールホワイト)0.15kg/m²と(標準色、艶あり)0.15kg/m²]の測定値です。

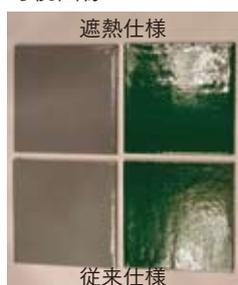
※日射反射率は、色により異なります。また、下地の状態、施工条件などにより異なる場合があります。

遮熱性 優れた遮熱性を発揮します。

熱画像



可視画像



※レフランプ(160W, 高さ30cm, 10分)照射時のサーモグラフィーによる表面の温度分布を測定しています。

耐汚染性 優れた耐汚染性を発揮します。

南面 1.5年経過



遮熱仕様：
アロンMDクールカラーSi
旧仕様：
溶剤系アクリルウレタン樹脂塗料

仕上塗料の適合性一覧表

仕上塗料		推奨適用部位 (標準：◎ 対応可：○)		標準使用量 (ローラー塗布時)		艶 (標準：◎ 対応可：○)			特注色 (対応可：○)
種類	名称	陸屋根	勾配屋根+壁面	陸屋根	勾配屋根	艶消し	半艶	艶あり	
標準仕上げ	アロン水性 RU	◎	◎	①0.2kg/m ²	①0.15kg/m ² ②0.15kg/m ²	◎	—	—	○
	アロン MD ルーフカラー Si	◎	◎	①0.2kg/m ²	①0.15kg/m ² ②0.15kg/m ²	—	◎	○	○
	アロン MD クールカラー Si ①クールホワイト ②標準色	◎	◎	①0.15kg/m ² ②0.15kg/m ²	①0.15kg/m ² ②0.15kg/m ²	—	○	◎	—
防滑仕上げ	アロン FTS	◎	—	①0.5kg/m ² ②0.5kg/m ²	—	◎	—	—	○
	①アロンMDルーフカラー-Si + アロンゴムチップ	○	—	①0.24kg/m ²	—	—	◎	○	○
	アロン MD クールカラー Si ①クールホワイト ②標準色 + アロンゴムチップ	○	—	①0.15kg/m ² ②0.18kg/m ²	—	—	○	◎	—
	①アロン水性 RU + アロンゴムチップ	○	—	①0.21kg/m ²	—	◎	—	—	○
耐摩耗仕上げ	①アロン FTS ②アロン FTS ③アロン MDルーフカラー-Si + アロンゴムチップ	○	—	①0.5kg/m ² ②0.5kg/m ² ③0.24kg/m ²	—	—	◎	○	○
	①アロン FTS ②アロン FTS アロン MDクールカラー Si ③クールホワイト ④標準色 + アロンゴムチップ	◎	—	①0.5kg/m ² ②0.5kg/m ² ③0.15kg/m ² ④0.18kg/m ²	—	—	○	◎	—
	①アロン FTS ②アロン FTS ③アロン水性 RU + アロンゴムチップ	◎	—	①0.5kg/m ² ②0.5kg/m ² ③0.21kg/m ²	—	◎	—	—	○

下地調整とプライマーの選定

1 選定表

下地または既存防水層の種類		プライマーの種類と標準使用量(kg/m ²)		区分	備考
保護アスファルト防水	現場打ち鉄筋コンクリート	アロン強化プライマー	0.4~0.5	K5	アロンコート SQ-S 工法施工時
		アロン水性プライマー	0.1	W1	アロンカチオクリート塗布後
		アロン水性マルチプライマー	0.1	SM1	
	アスファルトコンクリート	アロン水性プライマー	0.1	W1	アロンカチオクリート塗布後
		アロン水性マルチプライマー	0.1	SM1	
	クリンカータイル	アロン水性プライマー	0.1	W1	アロンカチオクリート塗布後 *2
		アロン水性マルチプライマー	0.1	SM1	
	保護層のみ撤去	アロン水性プライマー	0.1	W1	アロンカチオクリート塗布後
アロン水性マルチプライマー		0.1	SM1		
露出 *3、*4 アスファルト防水	砂付	アロン水性プライマー	0.1	W1	アロンカチオクリート塗布後
		アロン水性マルチプライマー	0.1	SM1	アロンコートSQ-M 工法で一般塗装の場合は省略可
高分子 *3、*4 ルーフィング防水	加硫ゴムシート(非加硫含む)	アロン強化プライマー	0.15~0.2	K2	事前確認が必要 *1
	塩化ビニル	アロン強化プライマー	0.15~0.2	K2	事前確認が必要、可塑剤による硬化不良の可能性 *1
	ゴムアス	アロン水性プライマー	0.1	W1	事前確認が必要
		アロン水性マルチプライマー	0.1	SM1	
塗膜防水 *4	ウレタン・クロロプレン	アロン強化プライマー	0.1	K1	1~3日乾燥させる *1
	タールウレタン	アロン QD-S	1	—	プライマーの代替としてアロン QD-S を使用
	アクリルゴム	アロン水性プライマー	0.1	W1	
		アロン水性マルチプライマー	0.1	SM1	
	アクリル樹脂	原則全面撤去		—	劣化が軽微な場合には、アクリルゴムに準じる
	エチレン酢酸ビニル	原則全面撤去		—	
FRP	アロン強化プライマー	0.1	K1	事前に目荒らし処理する	
シルバー塗装(撤去できない場合)		アロン水性プライマー	0.1	W1	活膜以外は除去する
		アロン水性マルチプライマー	0.1	SM1	
既存防水層を撤去する場合		アロン水性プライマー	0.1	W1	アロンカチオクリート塗布
		アロン水性マルチプライマー	0.1	SM1	
		アロン QD-S	1.5	—	一次防水として使用
現場打ち鉄筋コンクリート プレキャスト鉄筋コンクリート部材		アロン強化プライマー	0.2~0.5	K2・K5	—
		アロン水性プライマー	0.1~0.2	W1・W2	
		アロン水性マルチプライマー	0.1~0.2	SM1・SM2	
ALCパネル		アロン強化プライマー	0.4~0.5	K5	—
		アロン水性プライマー	0.1~0.5	W1・W2・W5	
		アロン水性マルチプライマー	0.1~0.5	SM1・SM2・SM5	

*1 プライマー塗布後1~3日以上放置し、タックフリーになるまで十分乾燥させます。

*2 塗布量を調整し、タイル目地を消します。

*3 既存防水層がシルバー仕上げの場合、ワイヤーブラシなどでシルバーを除去することを基本とします。シルバーを部分的に撤去できない場合は、プライマーとしてアロン水性プライマー(0.1kg/m²)を塗布します。下地調整を要する場合は、アロン水性プライマー(0.1kg/m²)を塗布後、アロンカチオクリートで行い、その後さらにアロン水性プライマー(0.1kg/m²)を塗布します。シルバー仕上げに直接セメントなどのアルカリ系の材料(アロンカチオクリート、アロン QD-S、アロンコート SQ-M用調整材)を塗布すると、膨れの原因になります。

*4 既存防水層を撤去する場合、アロンカチオクリート塗布 + アロン水性プライマー(0.1kg/m²)塗布、またはアロン QD-Sにて、下地調整を行います。

2 注意事項

- 1) 防水層を部分撤去した場合は、アロンカチオクリートで埋め戻し、これ以降は非撤去に準じます。ただし、この上にアロン強化プライマーを塗布する場合は、1~3日放置して十分乾燥させます。
- 2) 下地がポリマーセメント仕上げの場合は、プライマーとしてアロン水性プライマーを使用し、金属下地の場合はアロン強化プライマーを使用します。
- 3) 下地調整およびプライマーの使用量は下地の状況により変動します。
- 4) アロン QD-S、アロンコート SQ-M用調整材は深さ1mm以上の不陸修正、巣穴充填、凹凸面の平滑化などの下地調整には使用できません。(成膜時にひび割れる場合があります) 下地調整にはアロンカチオクリートを使用します。
- 5) 詳細は販売窓口のアロン化成(株)各店所にお問い合わせください。

各種工法の工程

1. 露出密着工法 SQ-S 工法【適用部位：RC、PCa*1、ALC*1 下地の陸屋根・バルコニー】…技術審査証明工法*2

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン強化プライマー、アロン水性プライマー またはアロン水性マルチプライマー	ローラー塗り	0.1~0.5	1~2回
防水材	2	アロンメッシュ アロンコートSQ (すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコートSQ	ローラー塗り または吹付け*4	2.0	1~3回
仕上塗料	4	各種仕上塗料*3 (1回塗りと2回塗りがあります。)	ローラー塗り または吹付け	*3	1~2回

《注意事項》 ※ RC は現場打ち鉄筋コンクリート、PCa はプレキャスト鉄筋コンクリートパネル、ALC は ALC パネルをあらわします。

*1：下地が PCa、ALC の場合は、別途処理として目地部アロンゴムシートテープ貼りが必要になります。

*2：遮熱仕上げおよび耐摩耗仕上げは、技術審査証明には対応しません。

*3：「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14) をご参照ください。

*4：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコート SQ 0.2kg/m² を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

2. 露出密着工法 SQ-SP 工法【適用部位：RC 造パラペット天端、庇】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン強化プライマー、アロン水性プライマー またはアロン水性マルチプライマー	ローラー塗り	0.1~0.5	1~2回
防水材	2	アロンメッシュ アロンコートSQ (すり込み塗り)*3	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコートSQ	ローラー塗り または吹付け*2	1.0	1~2回
仕上塗料	4	各種仕上塗料*1 (1回塗りと2回塗りがあります。)	ローラー塗り または吹付け	*1	1~2回

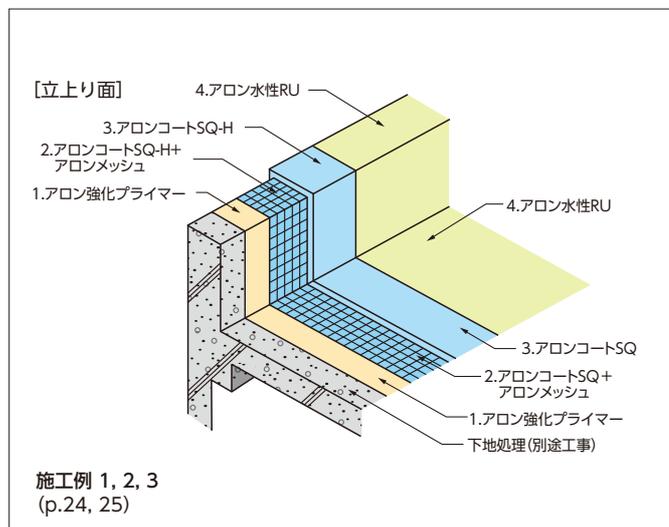
《注意事項》 *1：「保護仕上材の適合性一覧表」(p.14) をご参照ください。

*2：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコート SQ 0.2kg/m² を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

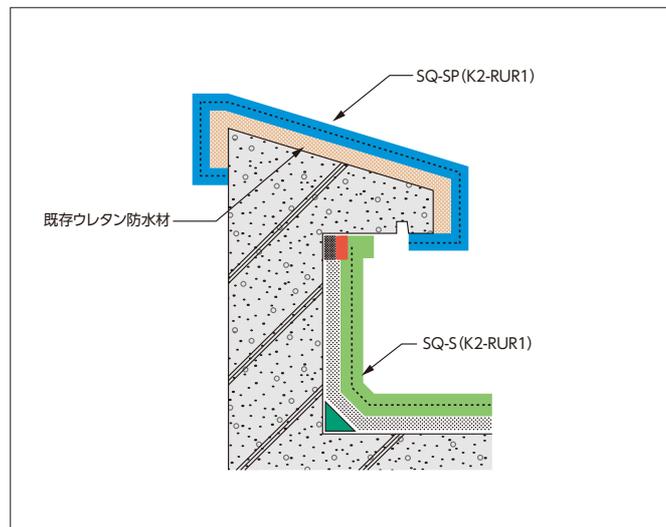
*3：庇においては、切付部分のみをアロンメッシュによる補強布張りをしてください。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

1 SQ-S 工法 (露出密着工法)



2 SQ-SP 工法 (露出密着工法)

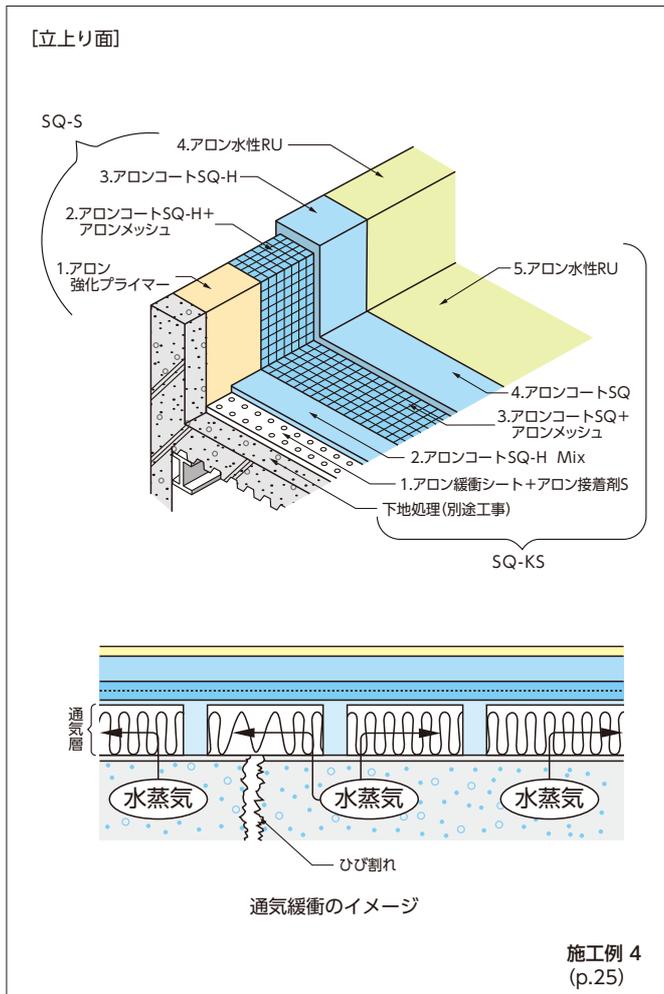


3. 露出通気緩衝工法 SQ-KS 工法【適用部位：陸屋根・円形ドーム屋根・勾配屋根】…技術審査証明工法*1

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
緩衝シート貼り	1	アロン緩衝シート アロン接着剤 S	ローラー塗り	0.3~0.5	1回
緩衝シートパンチ穴充填	2	アロンコートSQ-H Mix (アロンコートSQ-H:25 珪砂6号:4の混合品)	コテ	0.8	1回
防水材	3	アロンメッシュ アロンコートSQ (すり込み塗り)	ローラー塗り	0.5	1回
	4	アロンコートSQ	ローラー塗り または吹付け*3	2.0	1~3回
仕上塗料	5	各種仕上塗料*2 (1回塗りと2回塗りがあります。)	ローラー塗り または吹付け	*2	1~2回

《注意事項》 *1: 遮熱仕上げおよび耐摩耗仕上げは、技術審査証明には対応しません。
 *2: 「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。
 *3: 吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。
 ◎ 各使用製品の可使用時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

3 SQ-KS工法 (露出通気緩衝工法)



各種工法の工程

4. 露出通気緩衝工法 SQ-TK 工法【適用部位：陸屋根・円形ドーム屋根・勾配屋根】…技術審査証明工法*1

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン水性プライマー、アロン水性マルチプライマー またはアロン強化プライマー	ローラー塗り	0.1~0.5	1回
防水材	2	アロン TK シート アロンコート SQ Mix	コテ塗り	1.02m 1.5	1回
	3	アロンコート SQ	ローラー塗り または吹付け*3	2.0	1~3回
仕上塗料	4	各種仕上塗料*2 (1回塗りと2回塗りがあります。)	ローラー塗り または吹付け	*2	1~2回

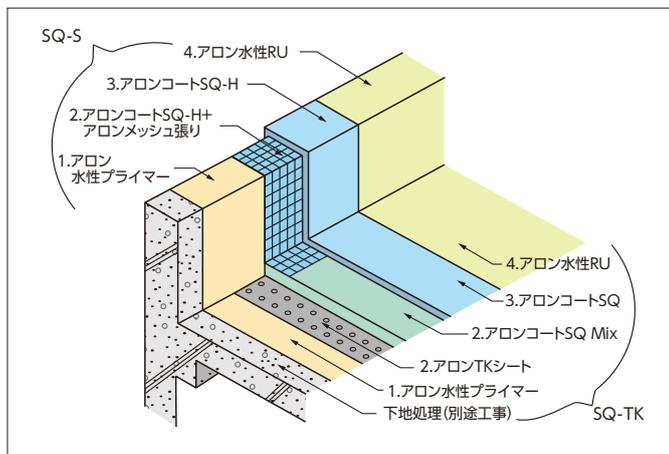
《注意事項》 *1：遮熱仕上及び耐摩耗仕上は、技術審査証明には対応しません。
 *2：「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。
 *3：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコート SQ 0.2kg/m² を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。
 ◎ 各使用製品の可使用時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

5. 勾配露出密着工法 SQ-K 工法【適用部位：RC、PCa*1、ALC*1 下地の勾配屋根】

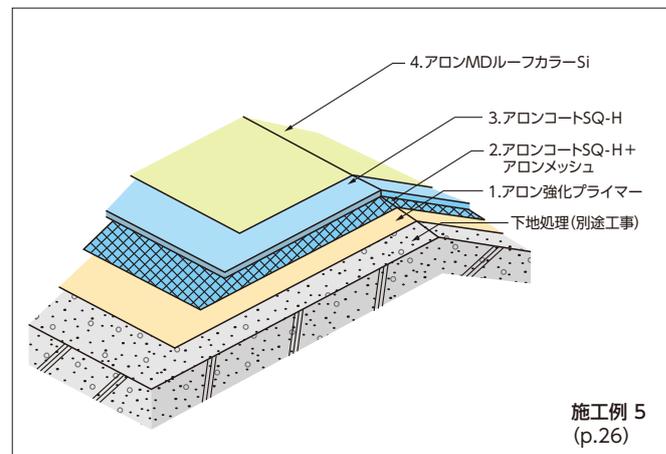
工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン強化プライマー、またはアロン水性プライマー またはアロン水性マルチプライマー	ローラー塗り	0.1~0.5	1~2回
防水材	2	アロンメッシュ アロンコート SQ-H (すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコート SQ-H	ローラー塗り または吹付け*3	2.0	1~3回
仕上塗料	4	各種仕上塗料*2	ローラー塗り または吹付け	*2	2回

《注意事項》 ※ RC は現場打ち鉄筋コンクリート、PCa はプレキャスト鉄筋コンクリート部材、ALC は ALC パネルをあらわします。
 *1：下地が PCa、ALC の場合は、別途処理として目地部アロンゴムシートテープ貼りが必要になります。
 *2：「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。
 *3：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコート SQ 0.2kg/m² を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。
 ◎ 各使用製品の可使用時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

4 SQ-TK 工法 (露出通気緩衝工法)



5 SQ-K 工法 (勾配屋根露出密着工法)



施工例 5 (p.26)

6. 保護密着工法 SQ-HD 工法 【適用部位：陸屋根】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン強化プライマー、アロン水性プライマー またはアロン水性マルチプライマー	ローラー塗り	0.1~0.5	1~2回
防水材	2	アロンメッシュ アロンコートSQ (すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコートSQ	ローラー塗り または吹付け	2.0	1~3回
	4	アロンメッシュ アロンコートSQ	ローラー塗り	1.0	1回
仕上塗料		全面絶縁用シート加工 (別途工事)			

《注意事項》 ◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

7. ドーム屋根露出密着工法 SQ-KD 工法 【適用部位：RC造ドーム屋根】

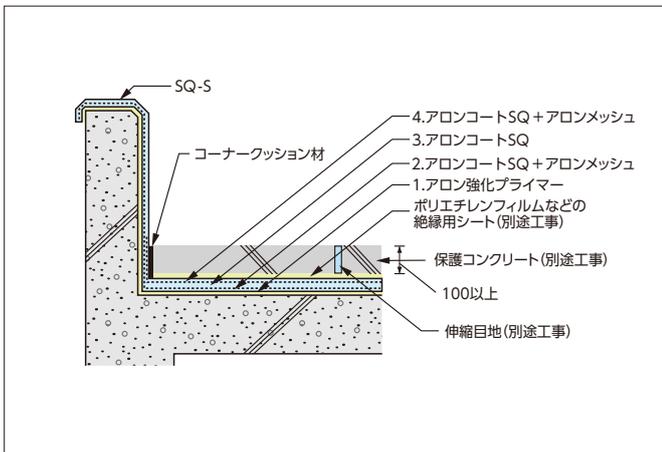
工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン強化プライマー、アロン水性プライマー またはアロン水性マルチプライマー	ローラー塗り	0.1~0.5	1~2回
防水材	2	アロンコートSQ-H (すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコートSQ-H	ローラー塗り または吹付け*2	2.0	1~3回
仕上塗料	4	各種仕上塗料*1	ローラー塗り または吹付け	*1	2回

《注意事項》 *1：「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

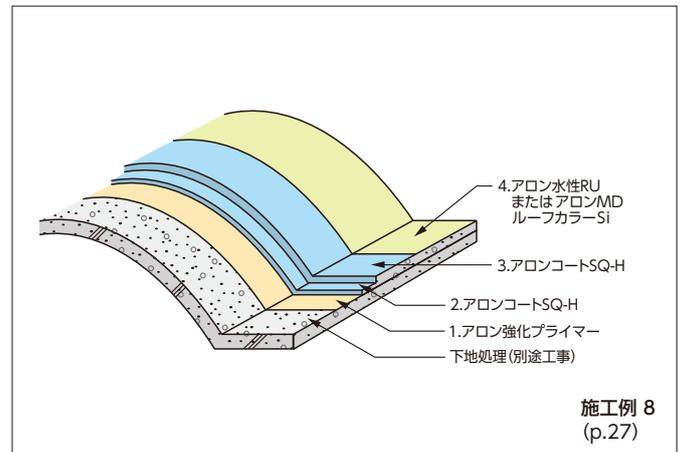
*2：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

6 SQ-HD 工法 (保護密着工法)



7 SQ-KD 工法 (RC造ドーム屋根露出密着工法)



施工例 8
(p.27)

各種工法の工程

8. 小屋根露出密着工法 SQ-RP 工法 【適用部位：小屋根(100m²以下)】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン強化プライマー、アロン水性プライマー またはアロン水性マルチプライマー	ローラー塗り	0.1~0.5	1~2回
防水材	2	アロンコートSQ (すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコートSQ	ローラー塗り	2.0	2~3回
	4				
仕上塗料	5	各種仕上塗料*1 (1回塗りと2回塗りがあります。)	ローラー塗り または吹付け	*1	1~2回

《注意事項》 *1：「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

9. 塔屋壁面露出密着工法 SQ-HW 工法 【適用部位：塔屋壁面】

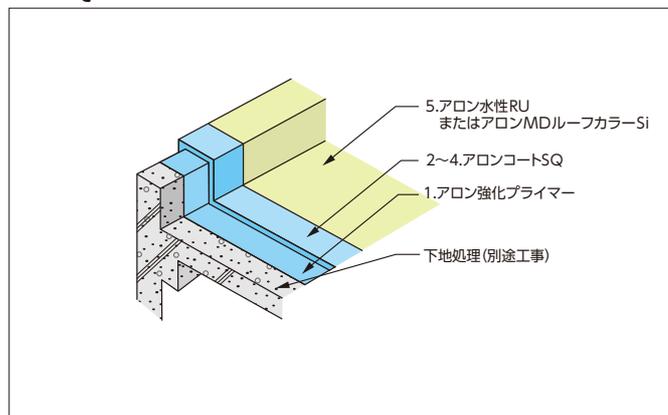
工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン強化プライマー、アロン水性プライマー またはアロン水性マルチプライマー	ローラー塗り	0.1~0.5	1~2回
防水材	2	アロンコートSQ-H	ローラー塗り	0.2	1回
	3	アロンコートSQ-H	ローラー塗り または吹付け*2	2.0	1~3回
仕上塗料	4	各種仕上塗料*1	ローラー塗り または吹付け	*1	2回

《注意事項》 *1：「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

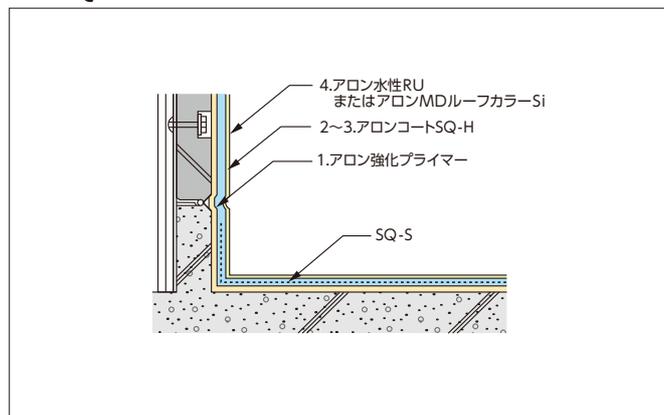
*2：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ-H 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

8 SQ-RP 工法 (役物の多い小屋根露出密着工法)



9 SQ-HW 工法 (塔屋壁面露出密着工法)



10. 地下外壁密着工法 SQ-UW 工法 【適用部位：地下外壁(埋戻し面)】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー	ローラー塗り	0.1~0.3	1回
防水材	2	アロンコート SQ-H (すり込み塗り)	ローラー塗り	0.5	1回
	3	アロンコート SQ-H	ローラー塗り または吹付け*1	1.5	1~3回
保護緩衝材		全面緩衝材施工(別途工事)			

《注意事項》 *1：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコート SQ-H 0.2kg/m² を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

11. アスファルトシングル葺屋根改修専用工法 SQ-AS 工法 【適用部位：アスファルトシングル葺屋根】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロンコート QD-S (すり込み塗り)	ローラー塗り	1.5	2回*1
防水材	2	アロンコート SQ-H	ローラー塗り または吹付け*2	1.5	1~3回
仕上塗料	3	各種仕上塗料*3	ローラー塗り または吹付け	*3	2回

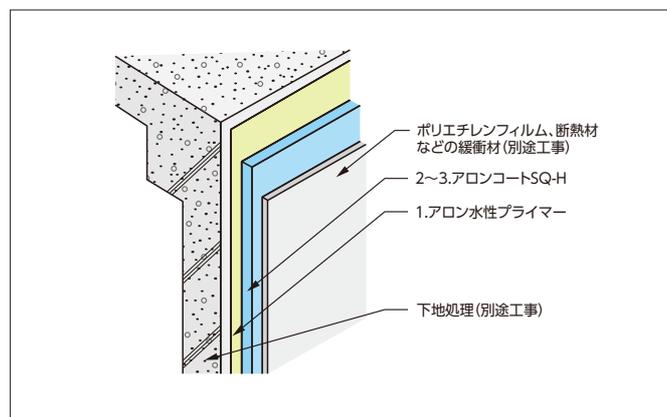
《注意事項》 *1：ピンホールをなくすため、プライマー兼下地調整材「アロン QD-S」は必ずローラー刷毛を用いて、2回に分けてすり込みます。

*2：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコート SQ-H 0.2kg/m² を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

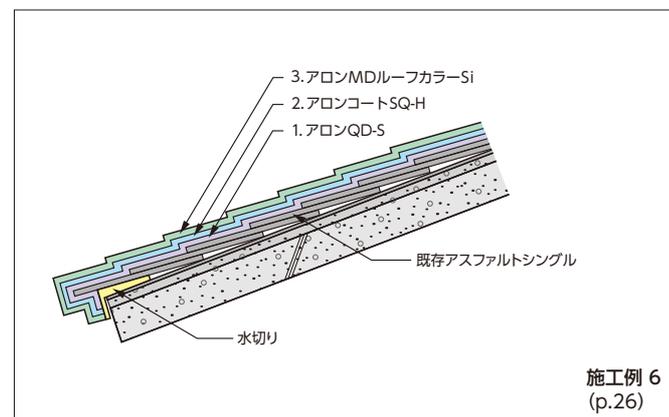
*3：「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

10 SQ-UW 工法 (地下外壁密着工法)



11 SQ-AS 工法 (アスファルトシングル葺屋根改修専用工法)



施工例 6
(p.26)

各種工法の工程

12. 砂付露出アスファルト防水改修専用工法 SQ-M 工法 【適用部位：砂付露出アスファルト防水】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン水性プライマー*1またはアロン水性マルチプライマー*1	ローラー塗り	0.1~0.5	1回
	2	アロンコート SQ-M 用調整材 (すり込み塗り)	ローラー塗り	1.5~2.0	1回
防水材	3	アロンメッシュ アロンコート SQ (すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	4	アロンコート SQ	ローラー塗り または吹付け*3	2.0	1~3回
仕上塗料	5	各種仕上塗料*2 (1回塗りと2回塗りがあります。)	ローラー塗り または吹付け	*2	1~2回

《注意事項》 *1：既存防水にシルバー塗装ではなく、未塗装の場合、アロン水性プライマー、アロン水性マルチプライマーの工程を省くことができます。

*2：「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

*3：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコート SQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

13. スレート瓦葺屋根改修専用工法 SQ-RS 工法 【適用部位：スレート葺屋根】

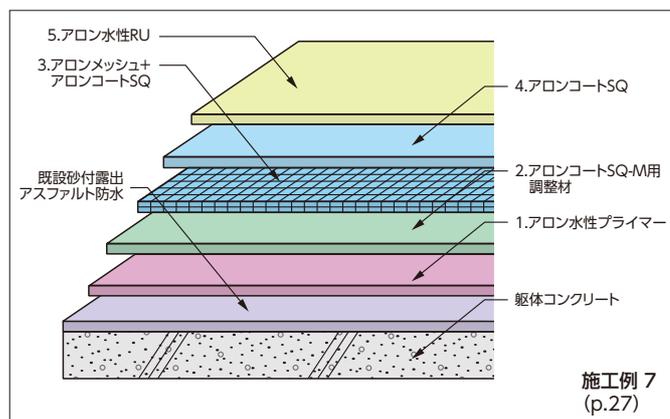
工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー	ローラー塗り	0.1~0.2	1回
防水材	2	アロンコート SQ-H (すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコート SQ-H	ローラー塗り または吹付け*2	2.0	1~3回
仕上塗料	4	各種仕上塗料*1	ローラー塗り または吹付け	*1	2回

《注意事項》 *1：「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

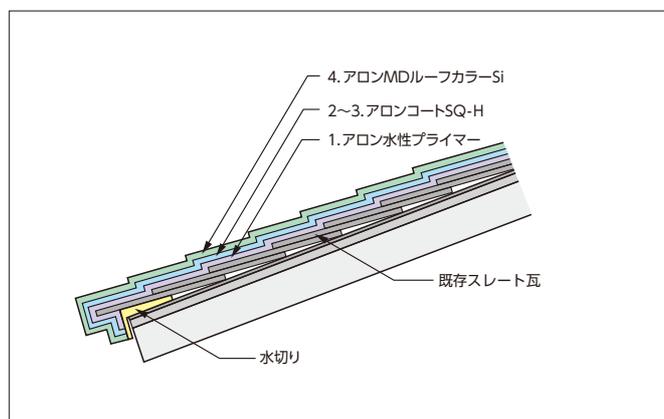
*2：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコート SQ-H 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

12 SQ-M 工法 (砂付露出アスファルト防水改修専用工法)



13 SQ-RS 工法 (スレート瓦葺屋根改修専用工法)



14. アロンリフレッシュ RA工法 SQ-RA 工法 【適用部位：アロンコートSQ 施工後15年未満の陸屋根】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー	ローラー塗り	0.1~0.5	1回
防水材	2	アロンコートSQ	ローラー塗り または吹付け*2	2.0	1~3回
仕上塗料	3	各種仕上塗料*1 (1回塗りと2回塗りがあります。)	ローラー塗り または吹付け	*1	1~2回

《注意事項》 *1：「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

*2：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

15. アロンリフレッシュ RK工法 SQ-RK 工法 【適用部位：アロンコートSQ 施工後15年未満の勾配屋根】

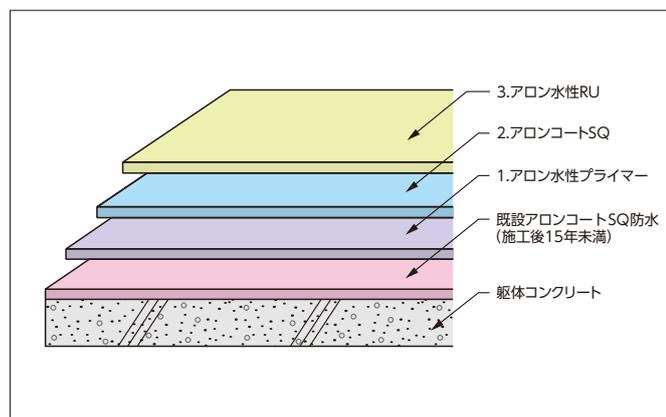
工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー	ローラー塗り	0.1~0.5	1回
防水材	2	アロンコートSQ-H	ローラー塗り または吹付け*2	2.0	1~3回
仕上塗料	3	各種仕上塗料*1	ローラー塗り または吹付け	*1	2回

《注意事項》 *1：「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

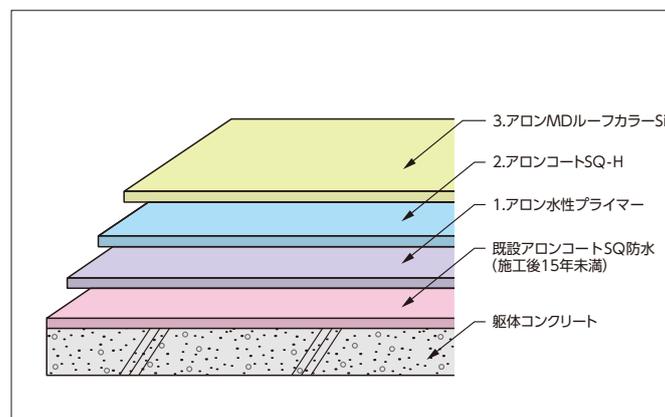
*2：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

14 SQ-RA 仕様(既設アロンコートSQ防水層の専用改修工法)



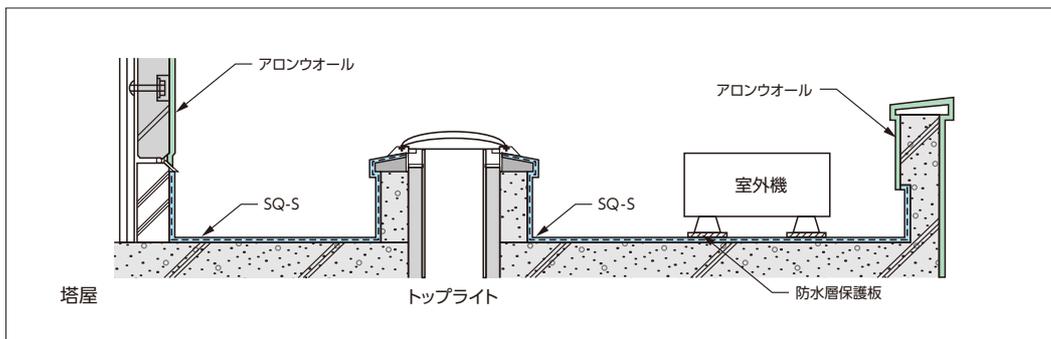
15 SQ-RK 仕様(既設アロンコートSQ防水層の専用改修工法)



施工例

施工例 1 露出密着工法 [SQ-S工法]

技術審査証明工法

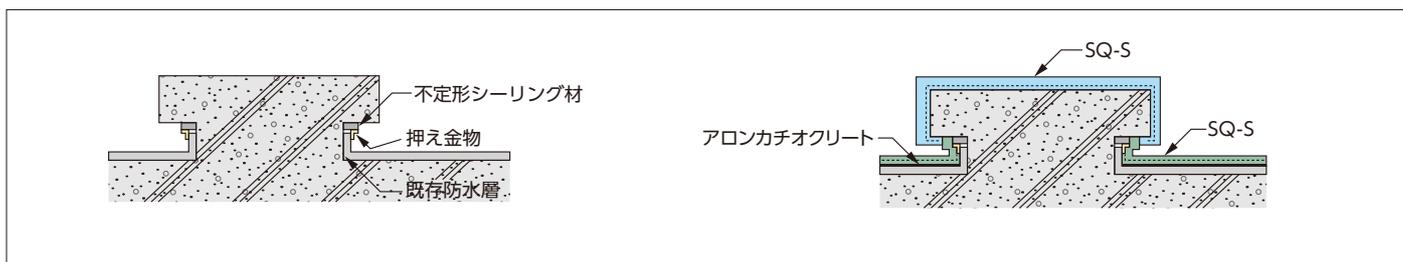


◀▲ 16年経過後、防水層に異常なし。

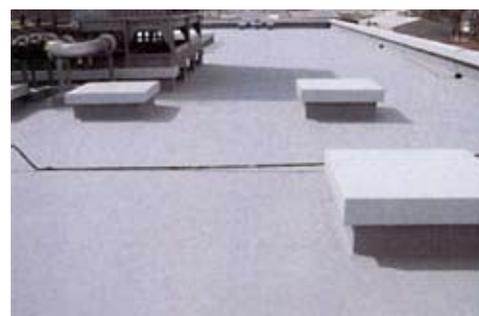
施工例 2 露出密着工法 [SQ-S工法]

技術審査証明工法

砂付露出アスファルト防水(かぶせ工法)



施工前



施工後



施工例 3

露出密着工法 [SQ-S工法]

技術審査証明工法

加硫ゴムシート防水の改修(かぶせ工法)



施工前



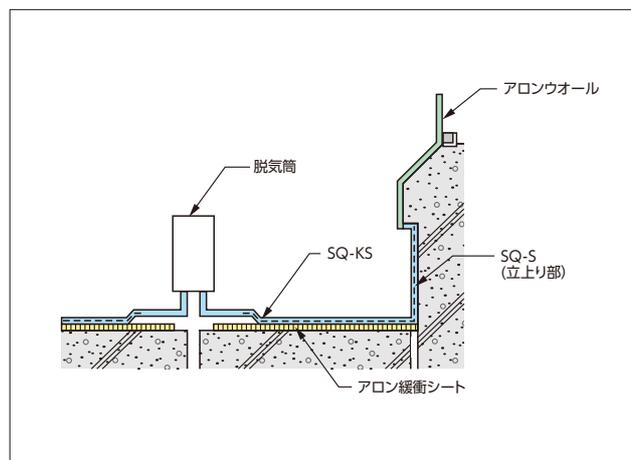
施工後

施工例 4

露出通気緩衝工法 [SQ-KS工法]

技術審査証明工法

保護アスファルト防水の改修(かぶせ工法)



施工前



施工後



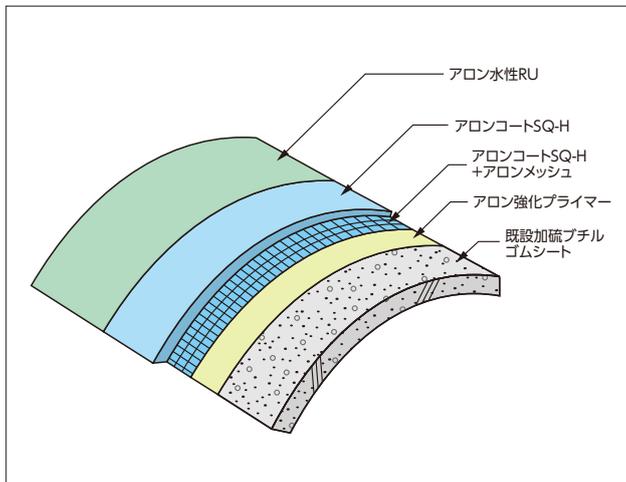
脱気筒は100~150m²に1箇所を目安に設置します。

施工例

施工例 5 勾配屋根露出密着工法

[SQ-K工法]

加硫ゴムシート防水の改修(かぶせ工法)



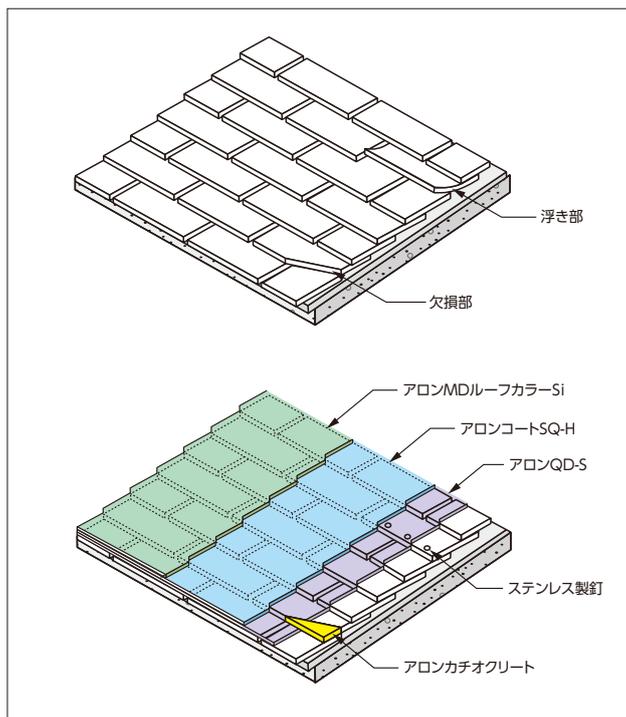
施工中



施工後



施工例 6 アスファルトシングル葺屋根改修専用工法 [SQ-AS工法]



施工前



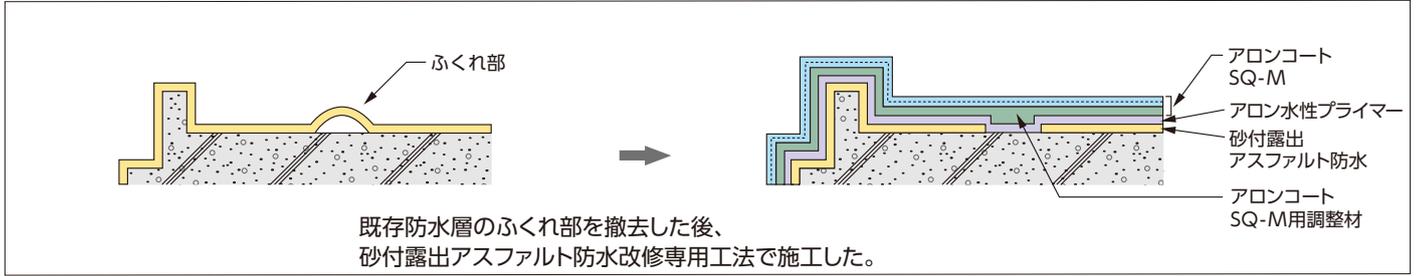
施工後



施工例 7

砂付露出アスファルト防水改修専用工法 [SQ-M工法]

砂付露出アスファルト防水の改修(かぶせ工法)



施工前



下地処理(ふくれ部撤去)



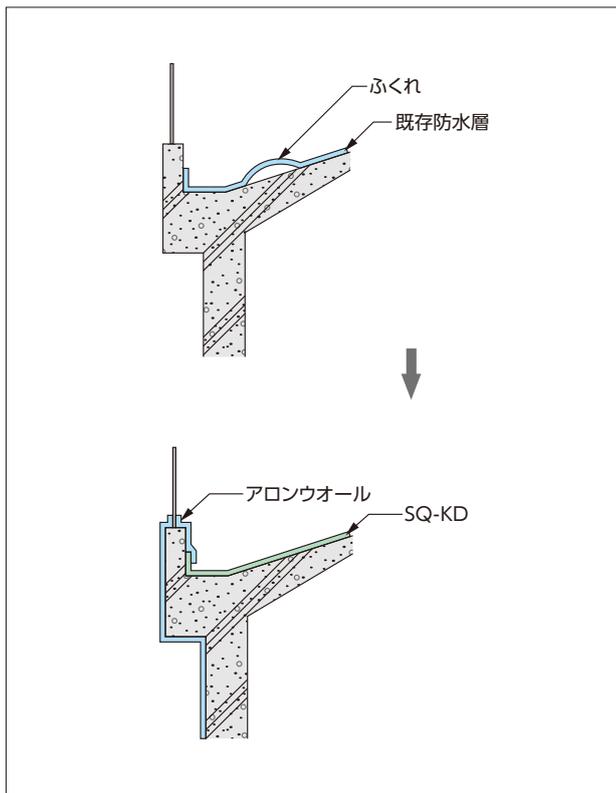
施工後

施工例 8

RC造ドーム屋根露出密着工法 [SQ-KD工法]

ウレタンゴム系塗膜防水の改修

施工前



施工後



施工

アロンコートSQ (防水材) の練混ぜ

1セット(25kg) = SQベース1箱(15kg) + SQセッター1袋(10kg)



丸型容器約30リットルにSQベース1箱(15kg)を投入する。



必要に応じてSQ遅延材を投入する(p.35参照)。



攪拌しながらSQセッター1袋(10kg)を逐次投入する。粘度を調整し、2~3分間十分に混合する。



20メッシュ程度の網で濾過する。



SQベースの中にセッターを投入します。投入順序を反対にすると混合できません。



攪拌機は、分散形羽根高速攪拌機を使用します。



攪拌羽根形状

施工手順例

SQ-S

1 プライマー塗布または吹付け



別途：下地処理
目地部補強布張り(PCa、ALCの場合)



SQ-KS

1 通気緩衝シート張り



2 パンチ穴充填



吹付けのほか、ローラー、左官刷毛やコテでの施工ができます。

ローラー、左官刷毛やコテでアロンコートSQ(防水材)を施工する場合は、1回の使用量を1.0kg/m²以内にし、使用量は工程数を増やすことにより調節します。



ローラーでの施工(2~3回塗り)



左官刷毛での施工(2回塗り)

2 メッシュ張り



3 防水材吹付け(1回塗り)



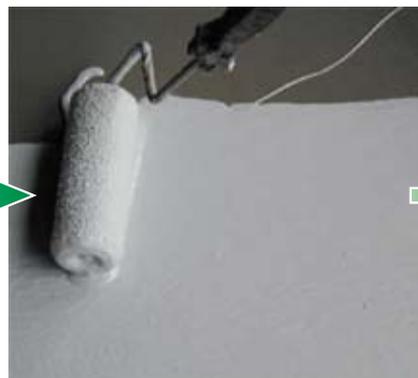
4 仕上塗料吹付け



3 メッシュ張り



4 防水材塗布(2~3回塗り)



5 仕上塗料塗布



■ アロンコートSQ(防水材)の塗膜物性

			測定値	測定方法
引張性能	引張強さ(N/mm ²)	23℃	1.4	養生：24h-23℃+72h-40℃ ダンベル状3号形(1mm厚) 引張速度：200mm/min
		-20℃	6.4	
		60℃	1.0	
	破断時の伸び率(%)	23℃	450	
	拡張積(N/mm)	23℃	126	
	破断時のつかみ間の伸び率(%)	23℃	200	
		-20℃	106	
60℃		106		
引裂性能	引裂強さ(N/mm)		12.7	B形、引張速度：200mm/min
加熱伸縮性能	伸縮率(%)		-0.3	300×30mm短冊、168h-80℃
劣化処理後の引張性能	引張強さ比(%)	加熱処理	100	ダンベル3号形 168h-80℃ オープンフレームカーボンアークランプ 250h 168h-0.1%-NaOHの飽和 Ca(OH) ₂ 168h-2%-H ₂ SO ₄
		促進暴露処理	121	
		アルカリ処理	121	
		酸処理	114	
	破断時の伸び率(%)	加熱処理	385	上記に同じ
		促進暴露処理	382	
		アルカリ処理	355	
		酸処理	370	
伸び時の劣化性状		加熱処理	合格	ダンベル1号形 100%伸張 168h-80℃ 50%伸張オープンフレームカーボンアークランプ 250h 40%伸張 168h-40℃ 75pphm
		促進暴露処理	合格	
		オゾン処理	合格	
固形分(%)			75	JIS K 5601-1-2

JIS A 6021-2011 建築用塗膜防水材(屋根用)による

■ 防水材の性状

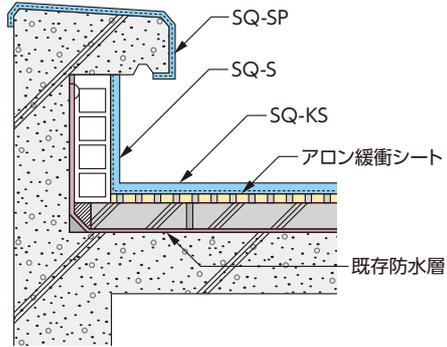
防水材料名		アロンコートSQ	アロンコートSQ-H
配合	ベース	SQベース(15kg/箱又は缶)	SQベース(15kg/箱又は缶)
	セッター	SQセッター(10kg/袋)	SQセッターH(10kg/袋)
混合後	固形分		約75%
	比重	液	1.20
		乾燥膜	1.50
	1kg/m ² 塗布時の乾燥膜厚(理論値)		0.50mm

上記データは実験値であり保証値ではありません。

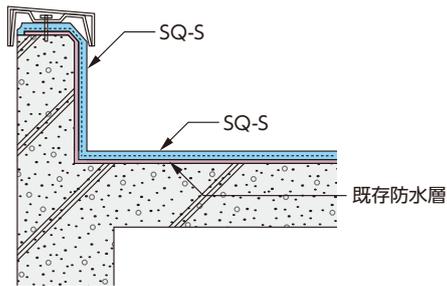
■ パラペットおよび入隅部の納まり

改修

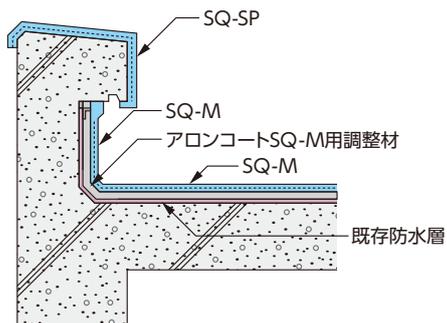
保護アスファルト防水の場合



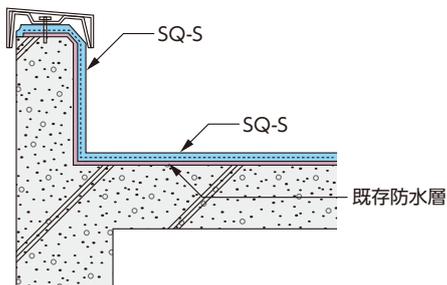
高分子ルーフィング防水の場合



露出アスファルト防水の場合

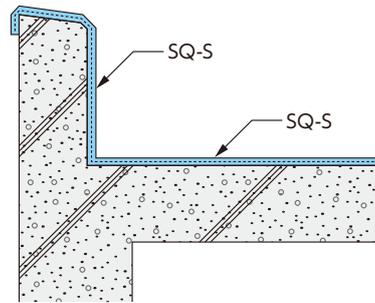


塗膜防水の場合

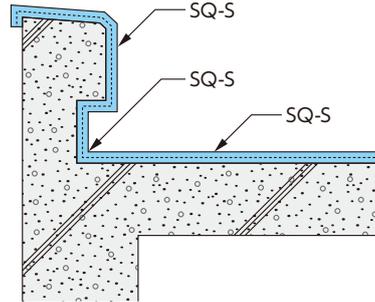


新築

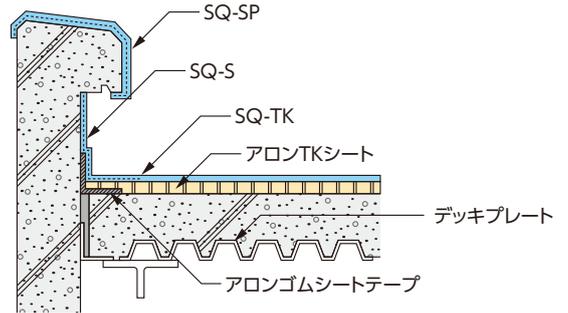
SQ-S(RC下地)の場合



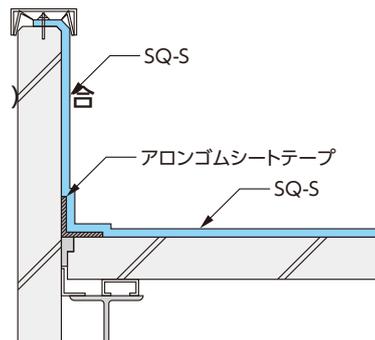
SQ-S(RC下地)の場合



SQ-TKの場合



SQ-S(ALC下地)

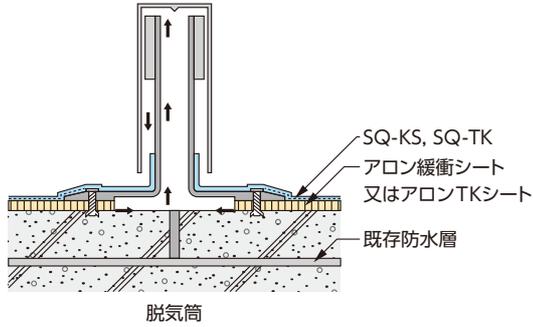


※既存防水層の入隅が浮いている場合は、縁切りを行う。

【改修】

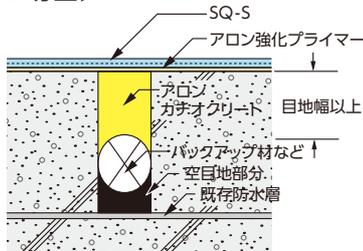
保護アスファルト防水の脱気処理例

〔SQ-KS、SQ-TKの場合〕



脱気筒の設置例

〔SQ-Sの場合〕

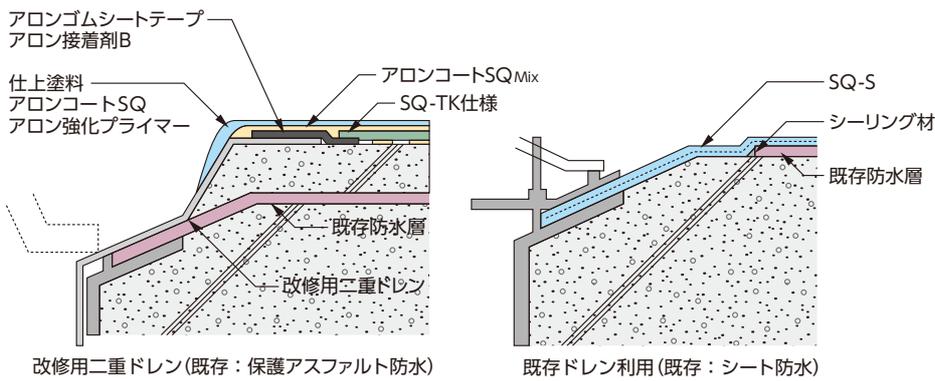


目地処理の施工例

伸縮目地処理例(脱気筒を併用します) ※施工前に吸引機で水を除去すること

ルーフトレン回り

〔縦引き型〕

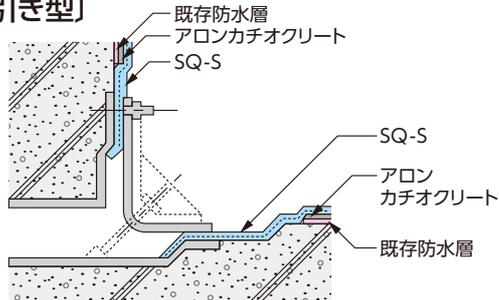


施工前



施工後

〔横引き型〕



施工前

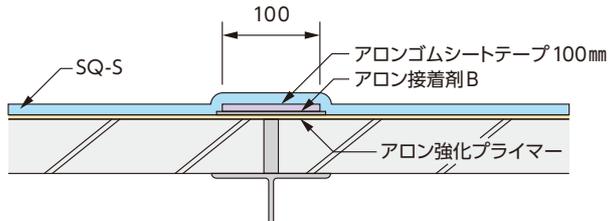


施工後

既存ドレン利用(既存：砂付露出アスファルト防水)

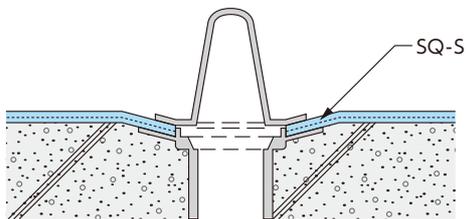
【新築】

■ PCa、ALC継手目地の納まり

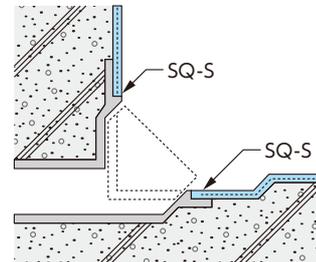


アロンゴムシートテープの張付け

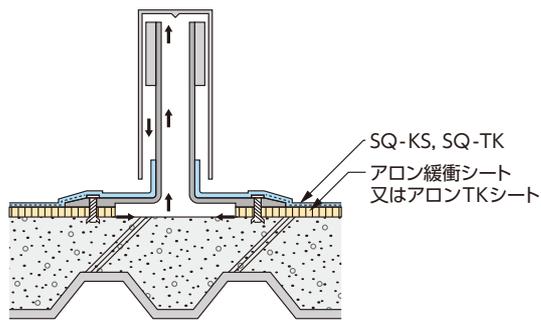
■ 縦引き型ルーフドレン（塗膜防水用）



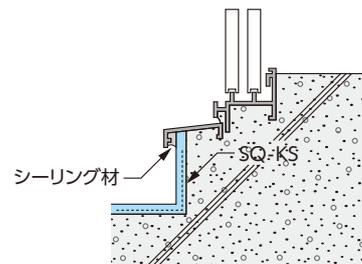
■ 横引き型ルーフドレン（塗膜防水用）



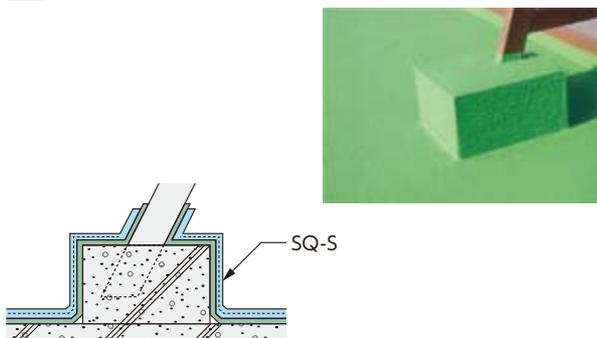
■ 脱気筒



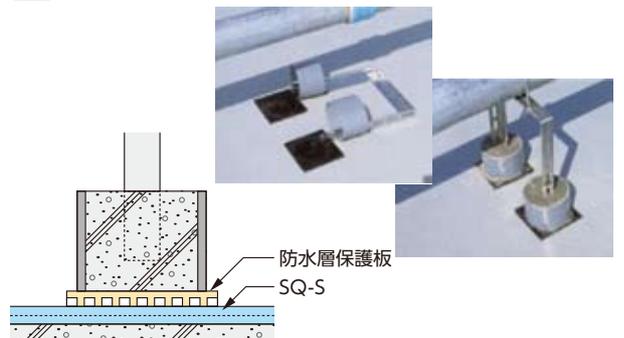
■ サッシュ回り



■ 手すり基礎



■ 架台基礎



注意事項

■ 下地処理について

1 下地の乾燥

- 1) 新築の場合
新築のコンクリートやモルタルは、一般的には4週間以上の養生が必要となります。乾燥程度は、Kett水分計 (HI-520) で10%以下としてください。
- 2) 改修の場合 (既存防水層への施工)
下地の乾燥は防水工事において重要な条件となります。下地の乾燥が不十分な状態での防水工事を行うことは、膨れの原因となります。

2 下地の平滑性

下地の平滑性も重要な条件になります。下地の凸部や突起物は、サンダー等で除去してください。また、不陸部や水溜りのできる箇所には、アロンカチオクリートで平滑に仕上げてください。

3 下地勾配の確認

陸屋根の下地の勾配は 1/100~5/100 の範囲に納まるようにしてください。勾配の調整には、アロンカチオクリートを使用してください。

4 下地の浮きおよび脆弱部

下地の浮きや接着力不足の場合には、防水層の浮きの原因になります。浮きおよび接着力不足の有無を確認し、その部分を撤去した後、アロンカチオクリートで平滑に仕上げてください。

5 下地の清掃

下地表面の汚れは、防水層への下地接着力不足を招き、膨れの原因にもなります。下地の清掃をするとともに汚れを除去してください。また、同時にレイトランスを除去し、下地の脆弱部分も処理してください。

6 出隅部・入隅部の処理

入隅部は直角仕上げとなっていることが望ましく、出隅部は 10~20mm 程度の丸面または 5mm 程度の面取りを行ってください。

7 貫通パイプ回りの処理

改修で金属製パイプは錆や塗料を除去した後にアロンMD防錆プライマーまたはアロン水性マルチプライマーを塗布し、また、塩ビ製のパイプはアロン強化プライマーまたはアロン水性マルチプライマーを塗布して防水材を用いてアロンメッシュによる補強張りを行ってください。

8 目地の処理 (改修時)

保護層に目地材がある場合には、できるだけ除去した後に、空目地や砂目地処理を行ってください (p.33 参照)。

■ 施工を始めるに当たって

1 気候の条件

- 1) 施工時の気温
5℃以上で施工してください。なお、アロンコートSQは、35℃以上で長距離圧送してエアレススプレーで施工する場合、必要に応じてSQ遅延剤を1包追加し、可使時間を調整してください。
- 2) 施工の中止
降雨、降雪、強風が予想される場合は、施工を中止してください。

2 防水材の粘度調整

施工機器により粘度を調整する場合は、清水を使用し、1セット当たり下表の希釈水量に従ってください。

	アロンコートSQ	アロンコートSQ-H
吹付け	250~500ml	250~750ml
ローラー	250~500ml	250~750ml
左官刷毛	250~500ml	—

■ 施工上の安全管理

1 保護具の着用

アロンコートSQは、取扱いにあたっては保護衣、安全帽、保護手袋、保護眼鏡等の着用を励行してください。

2 危険物の取扱い

一部のプライマーおよび仕上塗料は消防法に定める危険物に該当します。施工にあたっては、材料の運搬、保管、貯蔵や取扱いに十分注意してください。

3 作業環境の管理

防水工事にあたっては、常に作業上の危険や事故防止に配慮してください。また、施工の現場だけでなく周辺地域に対しても十分配慮してください。

■ 各工法の注意事項

1 各工法共通

- 1) 下地が全面ポリマーセメントモルタル(アロンカチオクリート)塗りの場合は、アロン強化プライマーに替えてアロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー(使用量0.1~0.2kg/m²)を使用してください。
- 2) アロンコートSQ(防水材)をローラー・左官刷毛で1.0kg/m²以上塗布する場合は、1回の使用量は1.0kg/m²以内とし工程数を増やして対応してください。
- 3) 防滑仕上げをローラーで施工する場合は、仕上塗料にアロンFTSを使用してください。使用量は、1.0kg/m²とし、2回に分けて仕上げてください。
- 4) 立上り部の防水材には、アロンコートSQ-H(防水材)を使用してください。アロンコートSQ(防水材)を使用することも可能ですが、水希釈量と塗布回数を調整してください。
- 5) 標準仕上げで、防水層に吹継ぎが生じる場合には、防水材のうち0.2kg/m²を散らし吹きしてください。
- 6) アスファルト防水の砂利押えの場合、防水層、下地に水分を多く含むことがあるため、防水層を部分的に切開し、水が多い場合には防水層全面撤去または十分な乾燥期間を設けてください。
- 7) 立上り部に、アロン水性RUを塗布する場合には、0.15kg/m²を2回塗りとしてください。
- 8) アロン水性RUやアロンFTSなどの水系仕上塗料には、界面活性剤を添加しています。施工面積や屋根形状、降雨量などにより異なりますが、稀に施工成膜後の降雨により、ドレンから樋を通じて排水マスや側溝などに流れ込んだ雨水が発泡する場合があります。

2 SQ-S

- 1) 保護アスファルト防水の改修では、アロン強化プライマー0.5kg/m²を2回に分けて塗布してください。
- 2) 保護アスファルト防水の改修では、目地処理(通気目地、溝目地処理)および脱気筒の設置をしてください。

3 SQ-SP

- 1) 庇においては、切付部分のみアロンメッシュによる補強布張りをしてください。

4 SQ-KS

- 1) 鉄骨造円形ドーム等屋根勾配5/100以上の場合は、立上り部用防水材アロンコートSQ-H(防水材)を使用してください。
- 2) 下地に含水が多く、脱気装置を必要とする場合は、特記仕様によります。
- 3) 鉄骨造円形ドームでの仕上塗料はアロン水性RUまたはアロンMDルーフカラーSi 0.3kg/m²とし、2回に分けて塗布してください。
- 4) アロン緩衝シートの立上り部およびシート相互は突付け張りとしてください。
- 5) アロン緩衝シートは、屋上側溝も張ることを原則とします。

5 SQ-K

- 1) アロンコートSQ-H(防水材)に替えて、外壁塗膜防水材「アロンコートST」も使用可能です。この場合、仕上塗料はアロン水性スーパーカラーSiを使用します。
- 2) 鋼製下地の場合は、特記仕様によります。

6 SQ-HW

- 1) パネル継手目地部は、先にシーリング処理をしてください。
- 2) 立上りが低い場合には、屋根と同じ仕上塗料も使用可能です。
- 3) アロンコートSQ-H(防水材)に替えて、外壁塗膜防水材「アロンコートST」も使用可能です。この場合、仕上塗料はアロン水性スーパーカラーSiを使用します。

7 SQ-AS

- 1) アスファルトシングルのみくれあがり等は、適宜、補修してください。
- 2) 施工後は表面が滑りやすくなり、雨水の流れ方、積雪の落ち方に変化が発生します。雨樋の調整や雪止めの設置を適宜実施してください。

8 SQ-M

既存防水層の状態によってはSQ-Mの施工により、膨れが発生する場合がありますが、防水性能上は問題ありません。

使用材料一覧

主材料一覧表

分類	材料名称		使用目的	性状	荷姿
プライマー	※アロン強化プライマー		下地に塗布含浸させ下地の強化と防水層との接着性向上	特殊変性2液反応硬化形 エポキシ樹脂有機溶剤溶液 主 剤：消・危、第4類第2石油類 硬化剤：消・危、第4類第1石油類	主剤 8.2kg/缶 硬化剤 6.8kg/缶 15kg/セット
	アロン水性プライマー		防水層との接着性向上	2液反応硬化形水系 エポキシ樹脂エマルジョン	主剤 6kg/缶 硬化剤 6kg/缶 12kg/セット
	アロン水性マルチプライマー			特殊変性エポキシ樹脂エマルジョン	16kg/缶
	アロンQD-S	アロンQDベース	SQ-ASの下地調整兼プライマー 密着工法の仮防水材兼プライマー	カチオン性アクリルゴム エマルジョン	15kg/缶
		アロンQDセッターS			
	アロンコートSQ-M用調整材 A材		SQ-M仕様の下地調整兼プライマー	乳白色カチオン性 アクリル樹脂エマルジョン	3kg/袋×6袋 18kg/セット
アロンコートSQ-M用調整材 B材		無機質硬化剤		20kg/袋	
補強布	アロンメッシュ	ソフトタイプ	防水層の強度を高め、下地の動きに対する追従性向上	ポリエステル繊維メッシュ 密度 約23×約22本/インチ 幅 1,040mm 長さ 50m/巻	1巻/箱 2巻/箱
		ミドルタイプ		ポリエステル繊維メッシュ 密度 約23×約18本/インチ 幅 1,040mm 長さ 50m/巻	
	アロンゴムシートテープ		特に動きの大きい所の下張りし、 下地の動きを吸収、追従性向上	表面合成繊維不織布付きアクリル ゴムシート状テープ 厚み 約0.4mm 長さ 50m/巻	4巻/箱(100mm幅) 8巻/箱(50mm幅)
	※アロン接着剤B		アロンゴムシートテープの接着に使用	非加硫ブチルゴムの淡黄白色有機 溶剤溶液 消・危、第4類第1石油類	3kg/缶 15kg/缶
防水材	アロンコートSQ (平場用)	アロンコートSQセッター	SQベースと混ぜ防水材として使用	無機質硬化剤	10kg/袋
		アロンコートSQベース	専用セッターと混ぜ防水材として使用	カチオン性アクリルゴムエマルジョン	15kg/箱または缶
	アロンコートSQ-H (立上り用)	アロンコートSQセッターH	SQベースと混ぜ立上り用の 防水材として使用	無機質硬化剤	10kg/袋
		アロンコートSQ Mix.セッター	SQベースと混ぜ、アロンTKシートの 穴埋め充填材として使用	無機質硬化剤	16kg/袋
	SQ 遅延剤		SQ(防水材)およびSQ-H(防水材)の 可使用時間の延長	白色無機系粉体(必要に応じて添加)	45g/包 50包/箱
仕上塗料	アロン水性RU		標準仕上げ用 防水層の保護および汚染防止	水性アクリルウレタン樹脂塗料(艶消し)	15kg/缶
	アロンFTS		防滑仕上げ用(ローラー用) 平面防水層の軽歩行用保護および汚染防止	骨材入りアクリル樹脂エマルジョン	20kg/缶
	※アロンMDルーフカラーSi		標準仕上げ用 防水層の保護および汚染防止	低汚染タイプ 2液反応硬化形弱溶剤系 アクリルシリコン樹脂塗料 艶あり・半艶消し 主剤・硬化剤：消・危、第4類第2石油類	主剤12kg/缶 硬化剤2kg/缶 14kg/セット
	※アロンMDルーフカラーSi用シンナー		アロンMDルーフカラーSiの希釈	無色透明な芳香族系有機溶剤溶液 消・危、第4類第2石油類	12.8kg/缶
	※アロンMDクールカラーSi		標準仕上げ用 防水層の保護および遮熱効果の付与 (遮熱仕様)	低汚染タイプ 2液反応硬化形弱溶剤系 アクリルシリコン樹脂高日射反射率塗料 艶あり・半艶消し 主剤・硬化剤：消・危、第4類第2石油類	主剤12kg/缶 硬化剤2kg/缶 14kg/セット
	※アロンMDクールカラーSi用シンナー		アロンMDクールカラーSiの希釈	無色透明な芳香族系有機溶剤溶液 消・危、第4類第2石油類	12.8kg/缶
通気緩衝シート	アロン緩衝シート		下地挙動の緩衝および下地水分の 通気を目的にした下張りシート	表面熱処理加工、有孔ポリエステル、繊維製 不織布シート 厚み 約1.2mm 幅1.2m 長さ50m	1巻/巻
	アロンTKシート			ガラスクロス、有孔ポリエステル 複合シート 幅1m 長さ100m/巻	1巻/巻
	※アロン接着剤S		緩衝シートの下地への接着に使用	合成ゴム(NBR系)の茶褐色有機溶剤溶液 消・危、第4類第1石油類	15kg/缶
	※アロン接着剤S用シンナー		接着剤Sの粘度調整(希釈) (接着剤S 5缶に対して 1缶使用)	ケトン系有機溶剤 消・危、第4類第1石油類	18ℓ/缶

※ 有機溶剤溶液系材料

副材料一覧表

分類	材料名称	使用目的	性状	荷姿	
充填材	珪砂 6号	アロンコートSQ 及び SQ-Hに混合してアロンTKシートとアロン緩衝シートの穴埋め充填材として使用		市販品	
	アロンゴムチップ	耐摩耗仕上げ用細目ゴムチップ		750g/包 4包/箱	
脱気装置	金属製脱気筒	緩衝層を通して集めた水蒸気を大気中に散逸させる目的で、平面部水上に設置	金属製脱気筒 例 (株)シーケー 052-761-3975 100~150m ² に一箇所取り付け	市販品	
下地処理材	アロンカチオクリート	アロンカチオクリートベース	ベースとフィラーを混ぜカチオクリート(ポリマーセメントモルタル)として下地処理に用いる	カチオン性アクリル樹脂エマルジョン	16kg/缶
		アロンカチオクリートフィラー F-0、F-1、F-2、F-3		既調合粉体	20kg/袋
	アロンカチオクリート厚付	アロンカチオクリートベース	30~50mm深さの欠損やはつり跡に1回の塗りつけで埋め戻す	カチオン性アクリル樹脂エマルジョン	16kg/缶
		アロンカチオクリートフィラー F-K、F-F		既調合粉体	15kg/袋
防錆プライマー	※アロンMD防錆プライマー	鋼板の化学的防蝕および防水層との付着力向上	2液反応硬化形 エポキシ樹脂弱溶剤溶液 主 剤：消・危、第4類第2石油類 硬化剤：消・危、第4類第2石油類	主剤16kg/缶 硬化剤 2kg/缶 18kg/セット	
	※アロンMD防錆プライマー用シンナー	アロンMD防錆プライマーの希釈	無色透明な芳香族系有機溶剤溶液 W：消・危、第4類第1石油類 A：消・危、第4類第2石油類	16ℓ/缶 4ℓ/缶	
溝目地	溝目地	既設防水押え層の伸縮目的に設置し、下地の水蒸気を集め導く目的に用いる	合成樹脂(耐衝撃性塩ビ)製成形品(商品名 フクビ溝目地) 市販品 例 フクビ化学工業(03)5742-6301	—	
シーリング材	アロンシーラントPU-1	ドレン回りなどの線防水	ノンブリード形 1成分 ポリウレタンシーリング剤	320ml/本 20本/箱	
バックアップ材	ポリエチレン製バックアップ材	シーリング材用バックアップ材	(例) (株)イノアックコーポレーション PEライトR-13(TEL052-683-1331)	市販品	
水切りテープ	オルタックアゴテープ	パラベットアゴ下専用水切りテープ	田島ルーフィング(株)製	市販品	

※ 有機溶剤溶液系材料

アロンメッシュ



アロン緩衝シート + アロン接着剤S



脱気筒 (市販品)



アロンゴムシートテープ + アロン接着剤B



アロンコートSQ 施工後の維持管理

施工が完了したアロンコートSQ防水層を健全に維持するためには、施工後の維持管理が重要です。

施主および建物管理者には、以下のような管理をお願いいたします。

■ 維持管理のお願い

アロンコートSQの防水性能を長期にわたって維持するためには、以下の管理をお願いいたします。

- ① 定期的な点検を行い、排水溝、ルーフトレン回りに溜まった土砂、落ち葉などは定期的に取り除き、水たまりのないようにしてください。また、防水層上には苔や草をはやさないようにしてください。
- ② 防水層や仕上塗料に剥がれ、ひび割れ、薄くなっているなどの異常が認められた場合には、弊社または施工業者にご相談ください。
- ③ 増改築や空調機器の設置などで防水層に手を加えることが必要な場合は、施工業者にご相談ください。
- ④ 仕上塗料は劣化の状況に応じて、同じ材料で塗替えを行ってください。なお、塗替え工事は有償工事となります。

■ 取扱い

- ① 塗膜層の上を歩行する場合は、スパイク底など、塗膜層を損傷する履物で歩かないでください。また、保護仕上げについて、以下の仕上げを設定しています。

標準仕上げ

塗料仕上げとなります。防滑性はないため、すべりやすく危険です。ご注意願います。

防滑仕上げ

防滑性を発現させるため、骨材入仕上材を使用します。

マンションや学校など歩行者が特定されている環境に適用します。

耐摩耗仕上げ

骨材入仕上材とゴムチップ入トップコートの複層により耐摩耗性のある仕上げとなります。

- ② 防水層の上に雪や水があるとすべりやすくなりますのでご注意ください。特に標準仕上げは防滑性がないため、大変すべりやすく危険です。
- ③ 防水層にねじり、摩擦、強い衝撃が掛かるような運動(走りを伴う運動やゴルフなど)は避けてください。
- ④ 防水層を鋭利な物で傷付けたり、物を落としたり引きずったりしないでください。雪降ろしや清掃する際、スコップなどの鋭利な道具の使用は避けてください。
- ⑤ 重量物、振動する物、鋭利な物を防水層の上に置かないでください。防水層上に架台基礎などを設置する場合は、保護板を敷設してください。
- ⑥ 防水層にネジ、釘、アンカーなどを打設し穴を開けないでください。
- ⑦ 防水層の上に溶剤、薬品類をこぼしたり、流したりしないでください。
- ⑧ 防水層の上で火気を使用したり、タバコを投げ捨てたりしないでください。
- ⑨ 防水層の上で別途工事を行う場合は、防水層に損傷を与えないようにしてください。
- ⑩ 脱気筒が設置されている場合には、足元に十分注意し、躓かないようにしてください。
- ⑪ ペットを飼ったり、動物の糞尿を放置しないようにしてください。
- ⑫ 防水層は、中性洗剤以外の洗剤で洗浄しないでください。

■ 組合について

1971年(昭和46年)、東亜合成(株)が、アクリルゴムを世界で初めて建築用途の屋根用塗膜防水材ならびに外壁用塗膜防水材として開発し、上市しました。早くも翌々年には、「アロンコート会」が設立され、1981年(昭和56年)には建設省の許可を取得して、「全国アロンコート・アロンウオール防水工事業協同組合(略称：全アロン防水組合)」が設立されるに至りました。

この組合は、アロンコート・アロンウオールを使用して塗膜防水工を行う全国の事業者で構成され、組合員の相互扶助の精神に基づいて必要な共同事業を行い、自主的な経済活動を促進することを主な目的としています。

技術委員会等で組合員の技術や知見の更なる向上を図り、アロン防水技能工やアロン調査診断・防水管理士等のプライベートライセンスを発行しています。また、塗膜防水材アロンコート・アロンウオールの宣伝、普及活動に努めています。

■ 組合の概要

名 称	全国アロンコート・アロンウオール防水工事業協同組合(略称：全アロン防水組合)
所 在 地	東京都港区西新橋 1-11-8 丸万 5号館 3階
設 立	1981年(昭和56年) 8月14日
許可番号	建設省東計振発第 359号
所 轄	国土交通省 土地・建設産業局 建設市場整備課
会 員 数 (2016年4月)	216 社 防水工事業者：203 社 販売代理店、アロン化成(株)および東亜合成(株)：13 社
電 話	03-3595-2331
F A X	03-3592-2816
Eメール	zen-aron@zen-aron.or.jp
U R L	http://www.zen-aron.or.jp



詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。
<http://www.zen-aron.or.jp>





販売部門



東京支店	〒105-0003	東京都港区西新橋 2-8-6	TEL 03-3597-7342 (ダイヤルイン)
大阪支店	〒530-0005	大阪市北区中之島 3-3-3	TEL 06-6446-6568 (ダイヤルイン)
名古屋支店	〒460-0003	名古屋市中区錦 1-4-6	TEL 052-209-8594 (ダイヤルイン)
福岡支店	〒810-0001	福岡市中央区天神 2-8-30	TEL 092-687-1415 (ダイヤルイン)
札幌営業所	〒060-0807	札幌市北区北七条西 4-1-2	TEL 011-709-6011 (代表)
四国営業所	〒762-0004	坂出市昭和町 2-4-1	TEL 0877-46-5201 (代表)

www.aronkasei.co.jp/



建材・土木グループ

☎ 0120-557-947 (フリーダイヤル)

<http://www.toagosei.co.jp>



- 本カタログ内のデータは実験値であり、保証値ではありません。
- 各使用材料を実際に調合および施工する場合には、使用者の責任において、当社発行の資料などに従ってください。
- 本カタログに記載の商品は、予告なしに仕様や取扱いを変更することがあります。